

「はたちの献血キャンペーン」に寄せて

沖縄県赤十字血液センター 献血推進課長 大城 正巳



社会生活に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症も、本年5月8日より5類へ移行され沖縄県に於いても本格的な経済活動が再開されました。商業施設や観光地に人が増え、活気を取り戻しています。

しかし、新型コロナ自体が収束したわけではなく、今後も、これまでのコロナ禍で学んだ経験を基に、一人ひとりが日常の中で感染対策を実践していくことが極めて重要です。我々血液センター職員もこれまで同様に感染対策を徹底して業務を遂行しております。

さて、今年度も2024年1月1日から2月28日の期間に「はたちの献血キャンペーン」が全国で展開されます。本キャンペーンは、献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤の

安定供給を確保するため、「はたち」の若者を中心として、広く国民各層に献血に関する理解と協力を呼びかけるものです。2024年も1月1日から2月29日の2か月間「その一歩が、だれかの一生になる。はたちの献血」をキャッチフレーズに実施されます。沖縄県は県庁県民広場で街頭キャンペーンを実施し、新聞、ラジオ各社を活用した広報を行います。さらに県内各大学へポスターを掲示して若年層の献血意識向上に努めてまいります。

図1は昭和60年から令和4年までの年代別献血者数の推移です。30代以下の献血者数は減少が続いています。特に平成18年以降、総献血者数に大きな変化はありませんが、30代以下の献血者数減少を40歳以上の献血が補っ

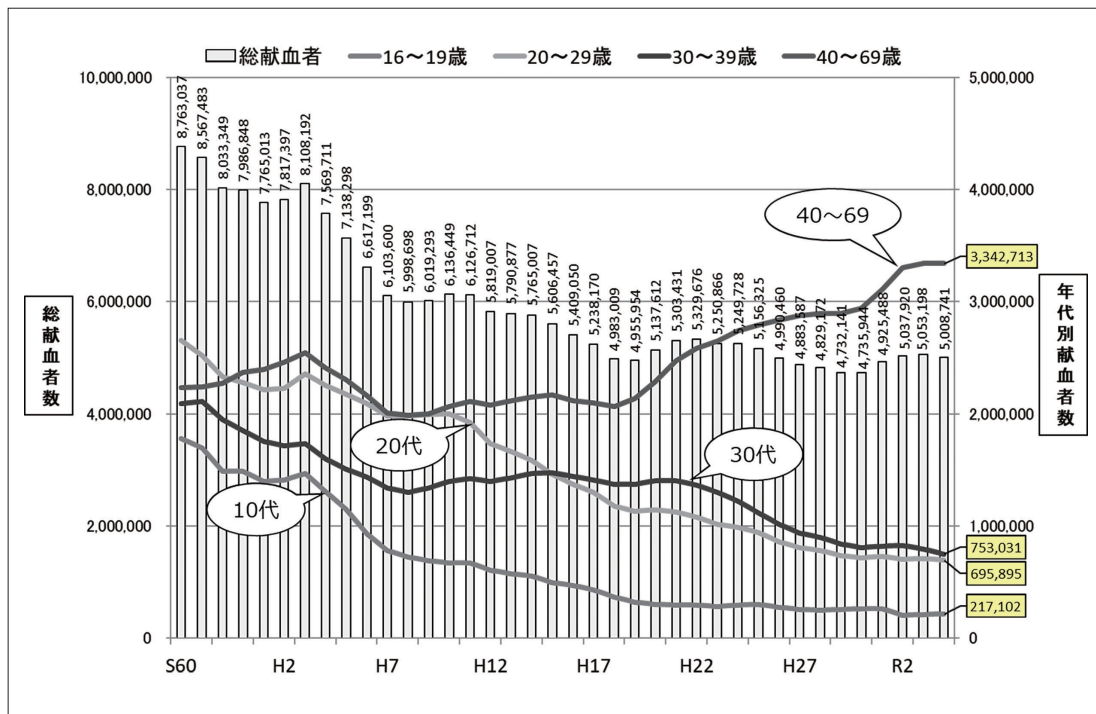


図1 年代別献血者数(延べ人数)の年度推移(全国)

表1 令和4年度 年代別献血率(沖縄県)

10代 (16歳～19歳)	献血率	4.30%	40代 (40歳～49歳)	献血率	7.14%
	献血者数	2,756		献血者数	14828
	人口	64,572		人口	207687
20代 (20歳～29歳)	献血率	4.50%	50代 (50歳～59歳)	献血率	7.89%
	献血者数	6,905		献血者数	14690
	人口	153,923		人口	186136
30代 (30歳～39歳)	献血率	5.70%	60代 (60歳～69歳)	献血率	2.67%
	献血者数	10,254		献血者数	4937
	人口	180,250		人口	184996

※ 60～64歳の期間に献血の経験があれば69歳まで延長可能。

ている状況となっています。若い世代の献血は数だけでなく人口に占める献血率(表1)も低く、10～30代の献血率は4.3～5.7%に対して40～50代は7.1～7.9%となっています。このような状況が起きた理由の一つとして考えられていることに高校献血があります。昭和60年以前は200mL献血のみで、16歳以上と一律の条件でした。その後、18歳以上の条件で400mL献血が整備されましたが、高校生では3年生で誕生日を迎えた生徒のみが対象でした。また、医療機関の希望も高単位製剤へ移行していき200mLの需要は少なくなりました。我々も400mL献血を増やして必要量を確保する方向へ推進し、200mL献血を実施していた高校生の献血数は減少していきました。図1では平

成4年からの10代の減少が約10年の間隔で20代、30代に表れています。このことを裏返すと若いころの経験はその後も影響し続けることが分かります。現在、高校献血は見直されており、男性は17歳から400mL献血が可能となりました。沖縄県では高等学校、専門学校、大学等、若い世代が多い場所へ積極的に献血バスを配車しています。

若者たちは、未来を担う存在であり、彼らの行動は未来の社会に大きな影響を与えます。若者たちにとって、献血に参加することは、ボランティア精神の醸成と社会の一員であることを再確認する良い機会になります。医師会の皆様におかれましても本趣旨をご理解いただき、献血推進へご協力をお願いいたします。

